



トマト黄化葉巻病の耐病性品種 「アイタキ1号」を開発

開発の背景・ニーズ

1996年に愛知県でトマト黄化葉巻病が初めて確認されて以来、トマト産地では、本病の被害による収量の減少が問題となっています。そこで、愛知県で発生しているトマト黄化葉巻病に耐病性を示す丸玉トマト品種をタキイ種苗（株）と共同で開発しました。

成果の内容

愛知県で発生しているトマト黄化葉巻病に耐病性を示す丸玉トマト品種をタキイ種苗（株）と共同開発しました。本品種は、トマト黄化葉巻病に耐病性を示すほか、TMV、葉かび病、萎凋病及び根腐萎凋病などトマトの主要病害に対しても抵抗性を示します。果実は、大きさが180～200g程度で食味が良好です。平成24年7月に育成を完了し、12月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。



産地で問題となっている
トマト黄化葉巻病



トマト黄化葉巻病ウイルスを
媒介するタバココナジラミ



「アイタキ1号」の着果状況



「アイタキ1号」の果実



「アイタキ1号」の果実断面

愛知県農業への貢献

本県のトマト産地に導入することで、トマト黄化葉巻病の被害が軽減でき、トマトの安定生産、安定供給が図られます。また、トマト生産者の経営基盤の強化が期待されます。